

「スマホ、タブレット、ゲーム機等に関するアンケート」の集計について

(2022年5月調査)

回答が得られた人数・回収率(小数点以下四捨五入)

〈児童生徒〉

小学校	3年	532人	計 2,070人
	4年	492人	
	5年	571人	
	6年	475人	

2,070(回答数)/2,213(全児童数) 回収率 94%

中学校	1年	496人	計 1,429人
	2年	451人	
	3年	482人	

1,429(回答数)/1,581(全児童数) 回収率 90%

〈保護者〉

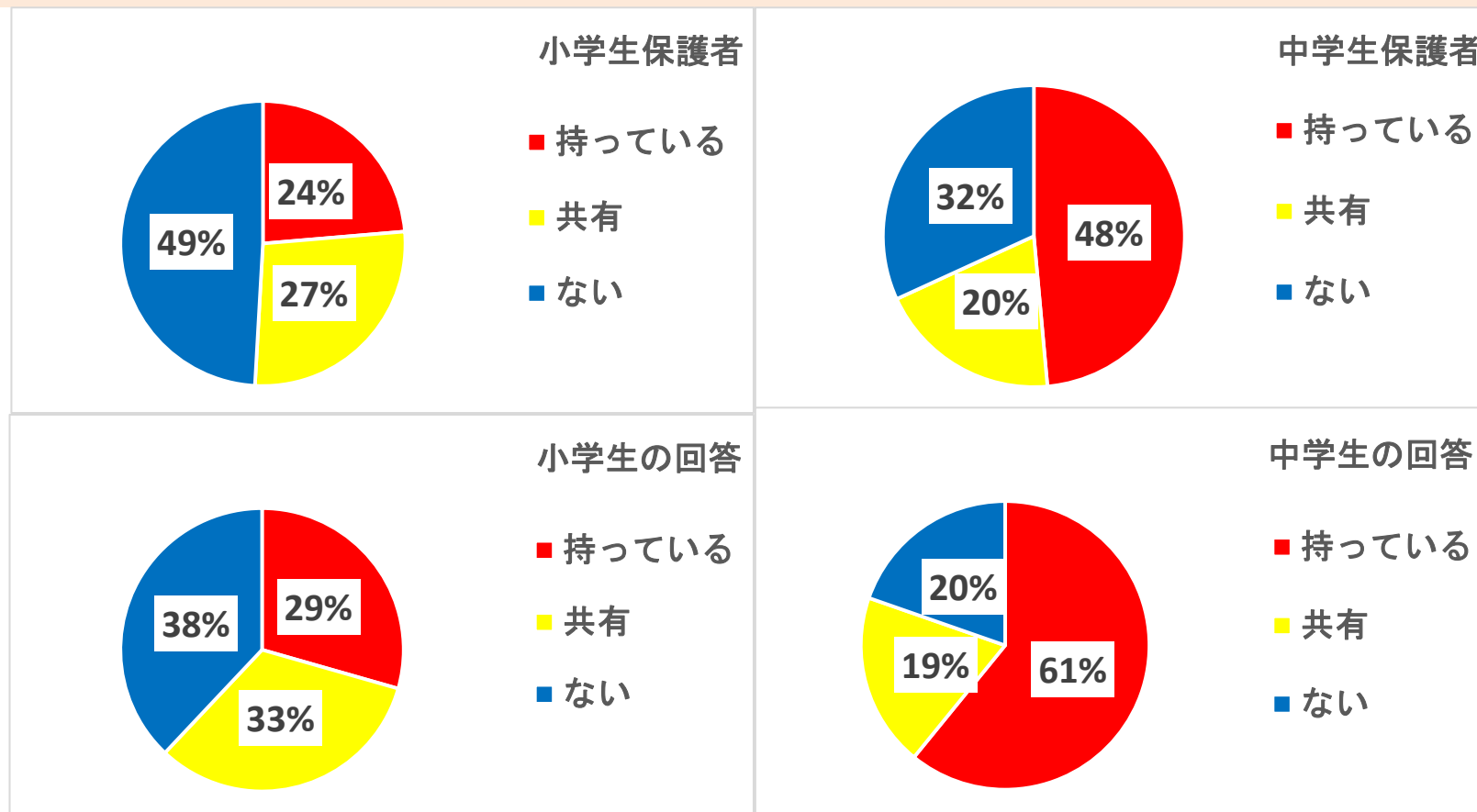
小学校	1年	192人	計 1,304人
	2年	220人	
	3年	221人	
	4年	226人	
	5年	217人	
	6年	228人	

1,304(回答数)/3,293(全児童数) 回収率 40%

中学校	1年	226人	計 556人
	2年	174人	
	3年	156人	

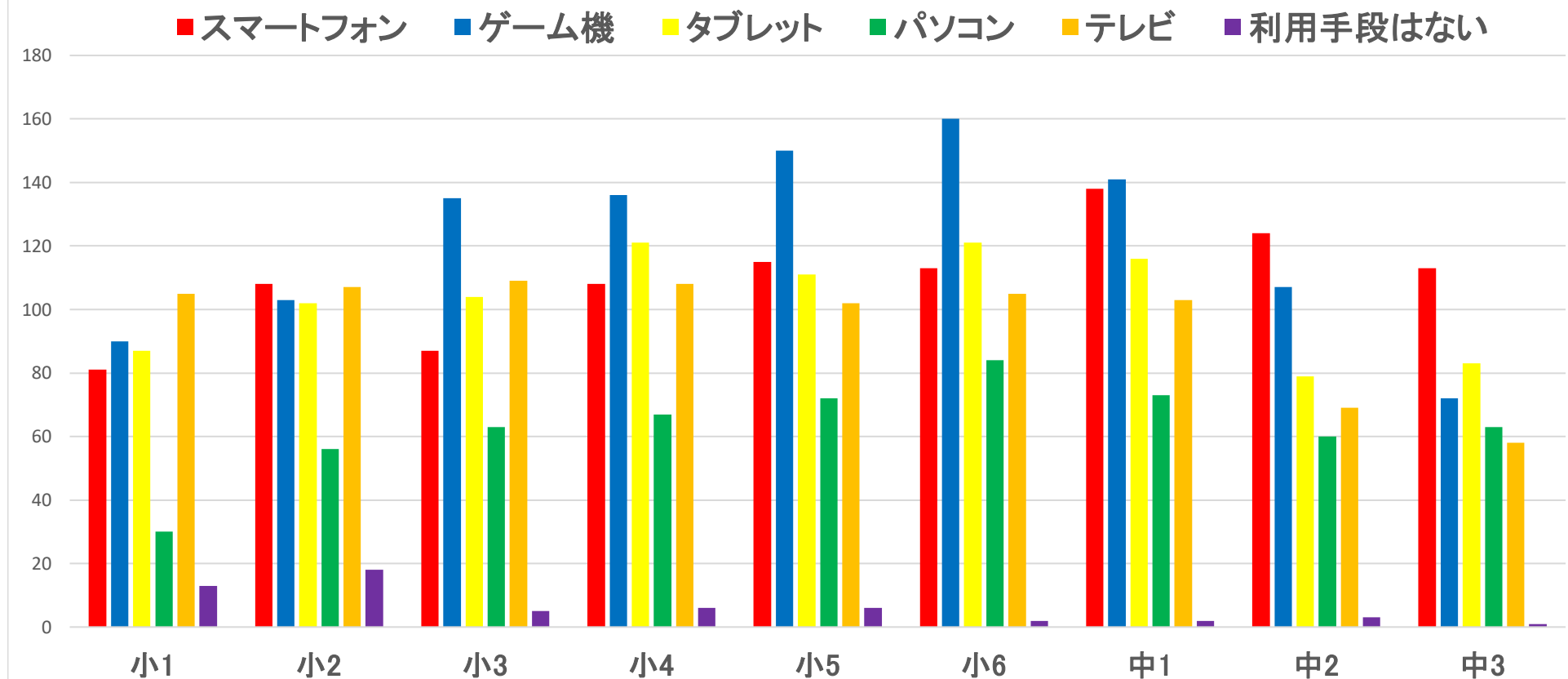
556(回答数)/1,581(全児童数) 回収率 35%

問①お子様が使える携帯電話(スマホ等)はありますか？



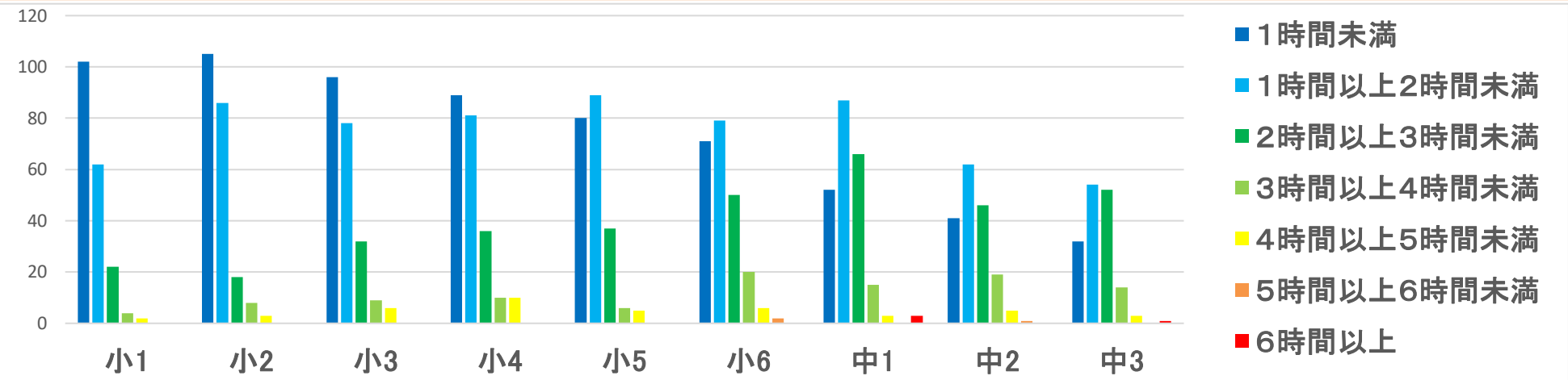
保護者と子どもの回答した結果に差が見られる。考えられる状況として①保護者は保護者の所有物と思っても子どもは「自分の物」と捉えている。②保護者所有の携帯電話を保護者が認識している以上に子どもが使っている。

問②ご家庭でお子様可以利用できるインターネット環境は何ですか？(複数回答可)

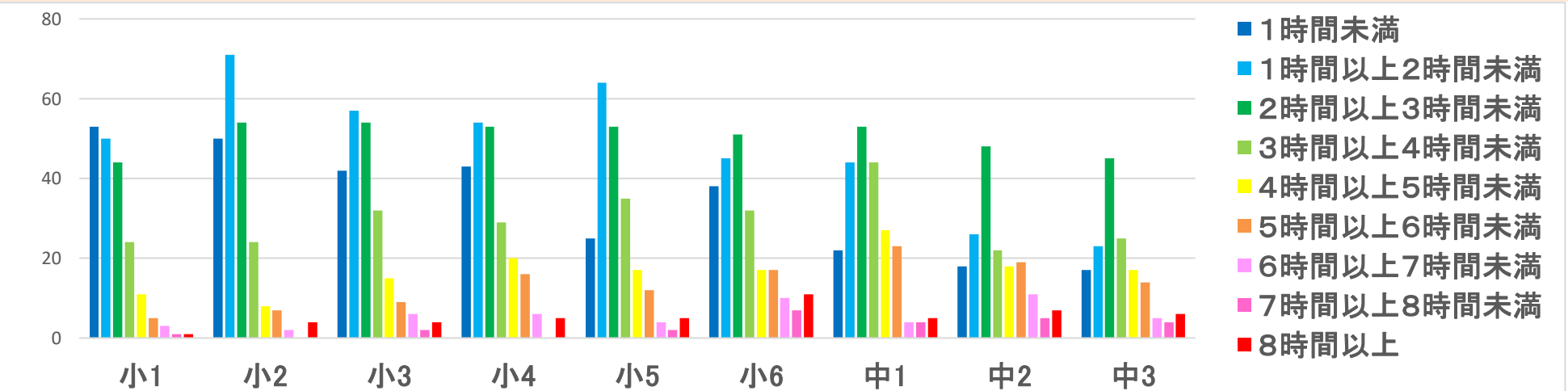


最近あらゆる手段でインターネットに繋がる時代。パソコンからインターネット接続をすることには慎重な家庭も、ゲーム機等からのアクセスの問題点について十分に理解できていない状況もあり、この点を特に重視して啓発を進める必要がある。

問③-1 平日 (SNSやゲーム、動画視聴など、学習以外で使う時間)

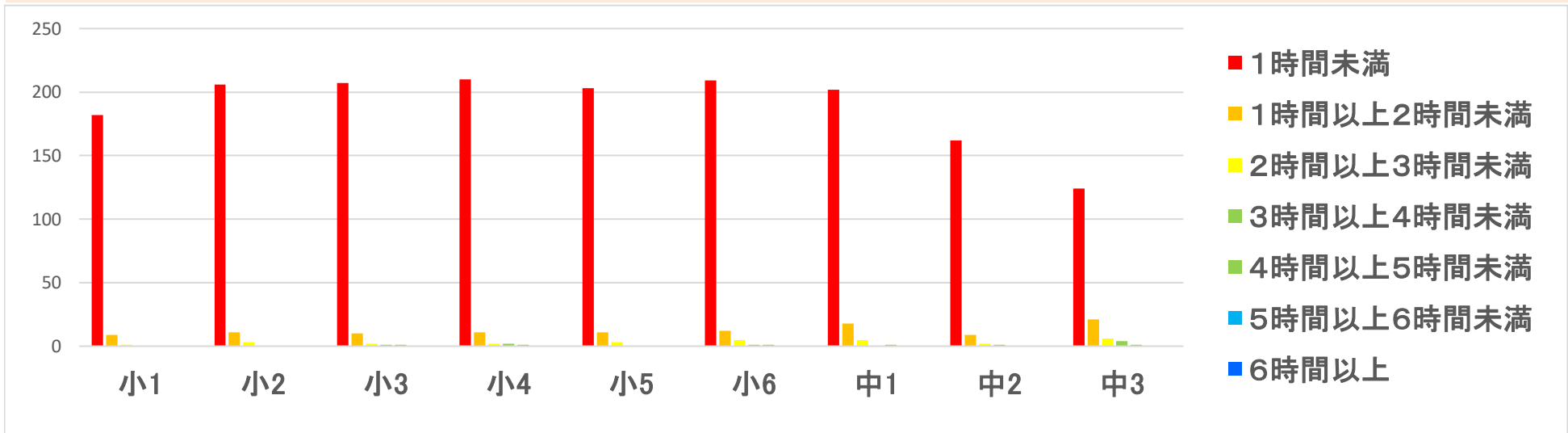


問③-2 休日 (SNSやゲーム、動画視聴など、学習以外で使う時間)

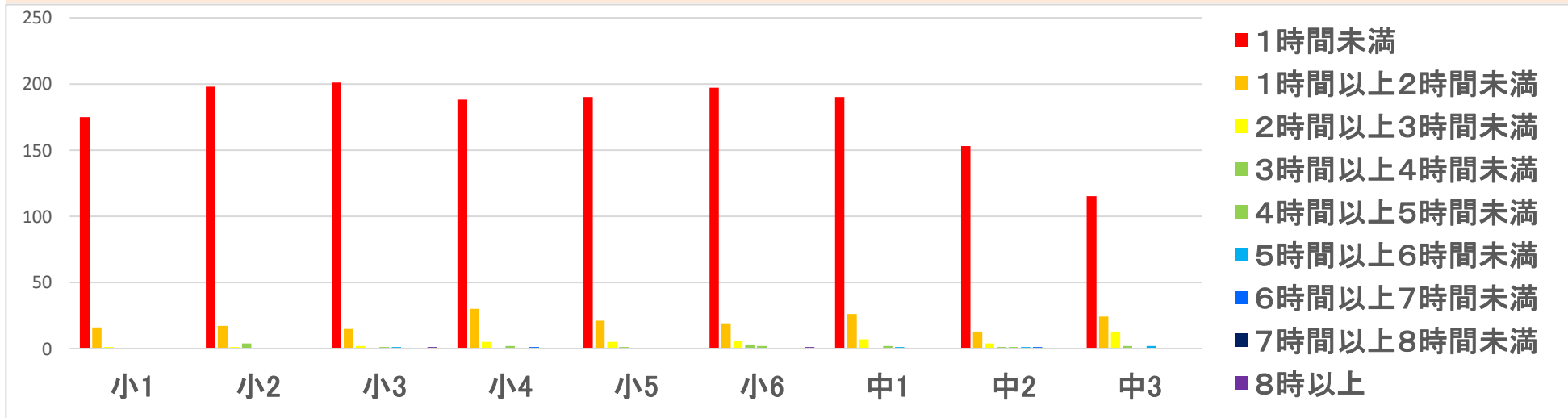


平日、休日ともに、保護者は子どもの長時間使用の実態を認識している。保護者がコントロール出来ていない家庭があると考えられ、大変心配な状況である。

問③-3 平日(家庭学習でパソコン、タブレット等のICT機器を使う時間)

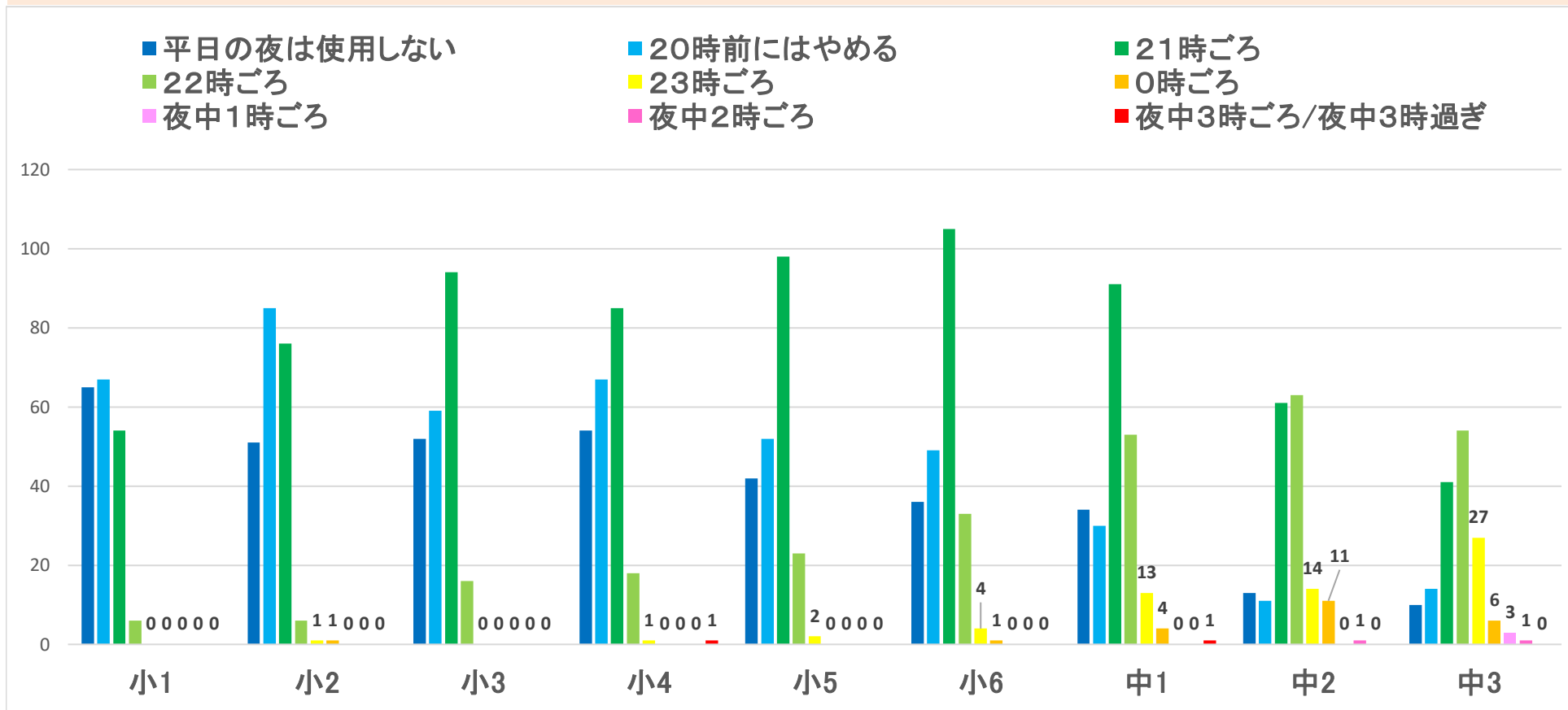


問③-4 休日(家庭学習でパソコン、タブレット等のICT機器を使う時間)



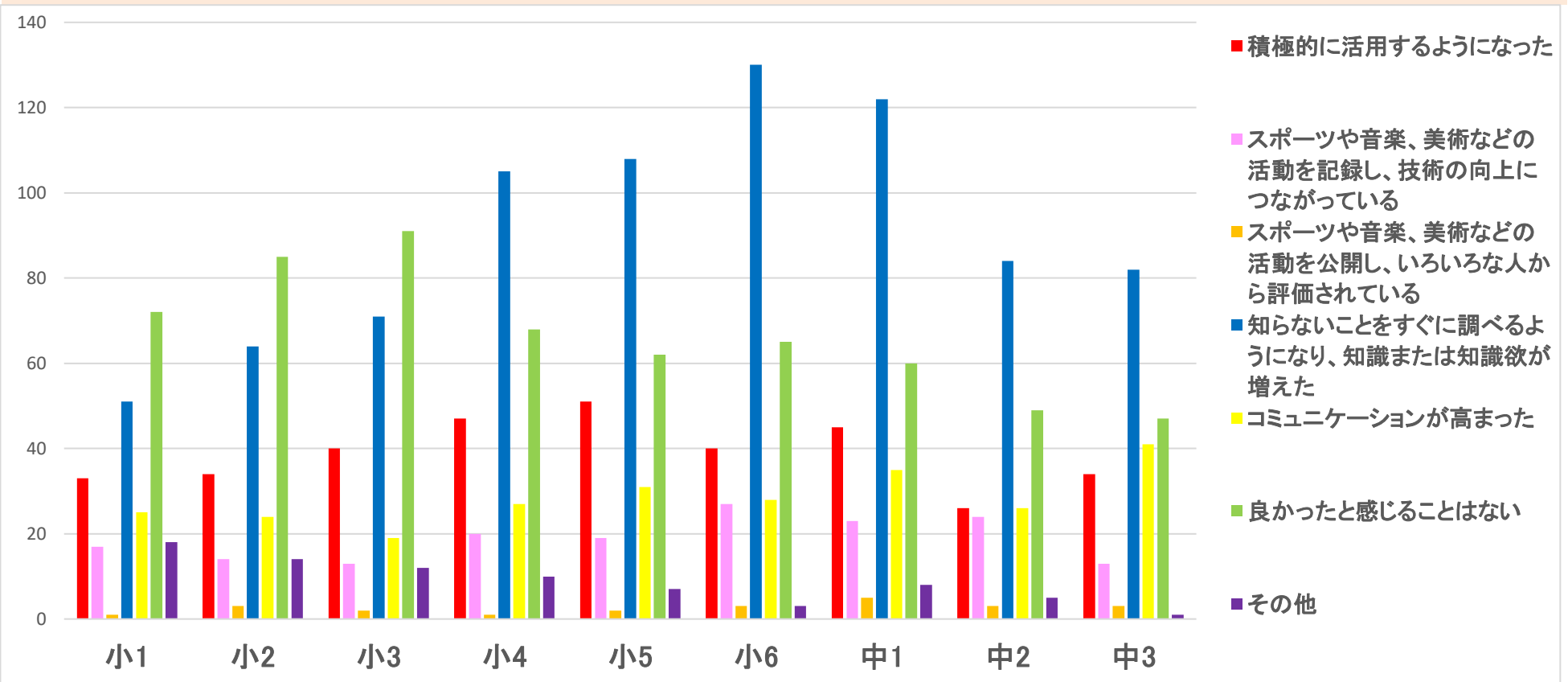
平日、休日ともに学年を問わず、家庭学習でICT機器を使う時間は少ない。

問④ 平日の夜、ゲームや動画視聴、SNSなどを何時頃までやっていることが多いですか？



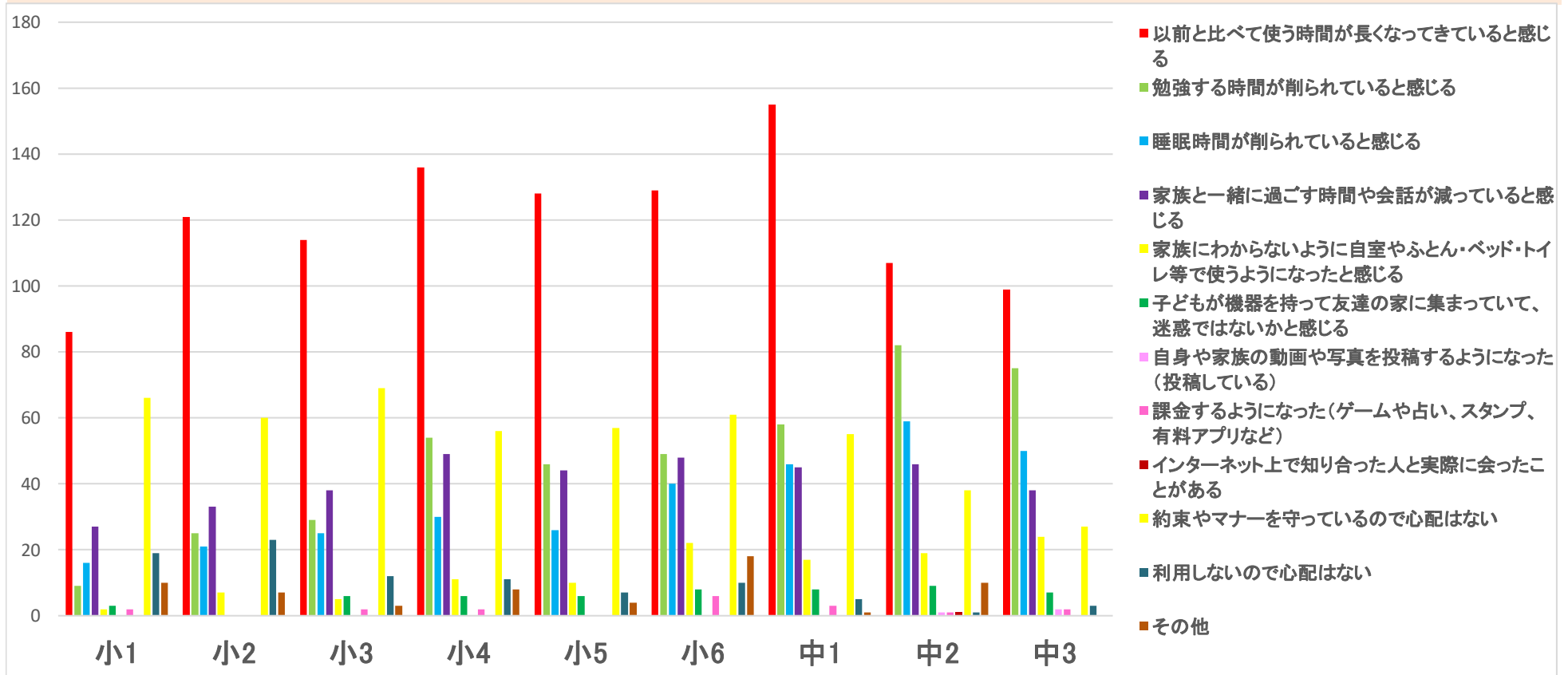
平日の夜、小学生のほとんどが21時頃までの使用である。中学生の使用ピークは21～22時頃である。小学生の23時以降使用や中学生の深夜使用は、睡眠不足で学校生活に影響があるのではないかと心配になる。更に大変心配なのは、0時以降も使用している小中学生がいて、保護者もそれを承知している。

問⑤お子様がスマートフォンやパソコン、タブレット等を使うようになって良かったと感じていることはありますか？（複数回答可）



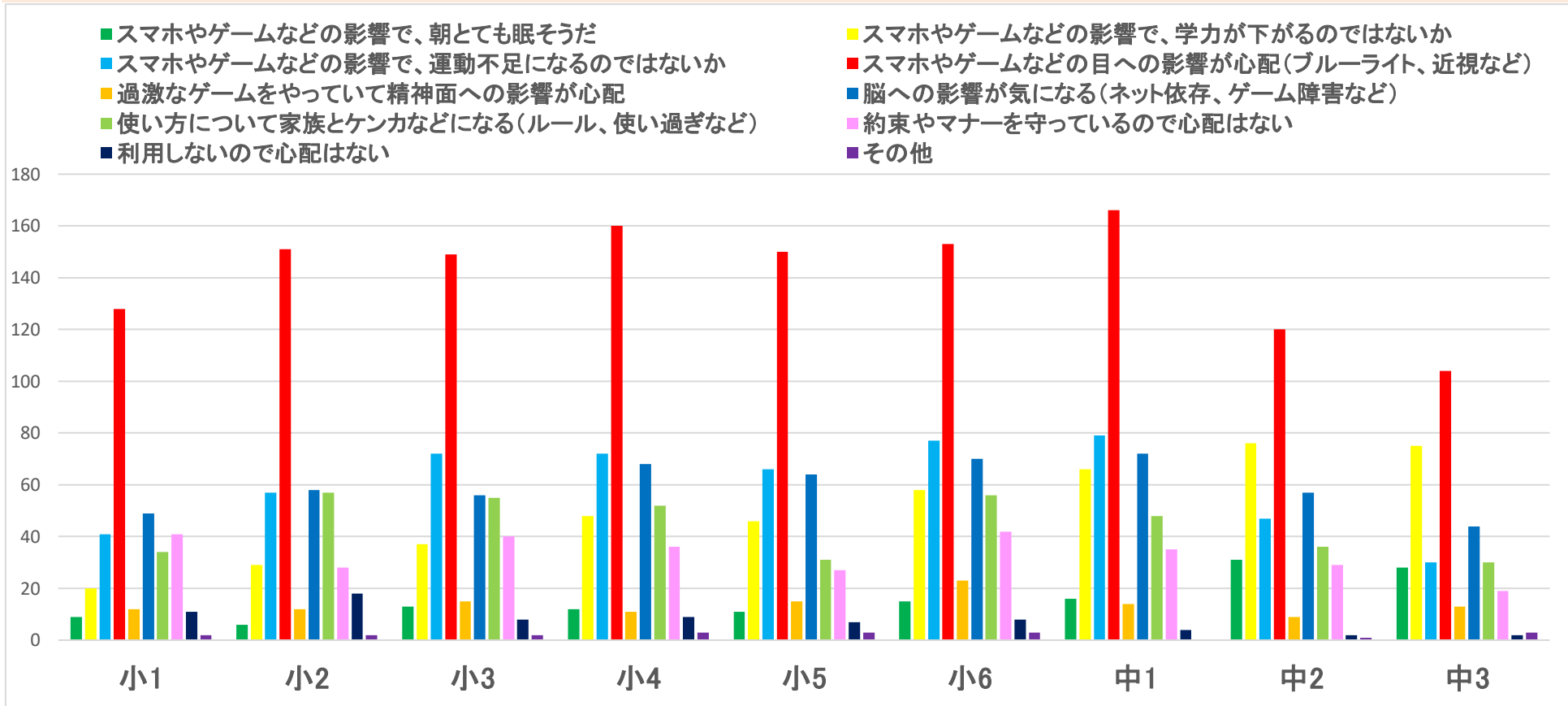
小中学生ともに、保護者が良かったと感じていることは「知らないことをすぐに調べるようになり、知識または知識欲が増えた」である。2番目は「良かったと感じることはない」が多い。小学生保護者の34%、中学生保護者の28%がこの回答であり、全体の約3分の1の保護者が子どもの使用について否定的な思いがあることがうかがえる。また、子ども自身の活動としてのICT機器活用の場面があることも明らかである。

問⑥お子様のインターネットやゲーム機等の使い方に関して心配なことはありますか？（複数回答可）



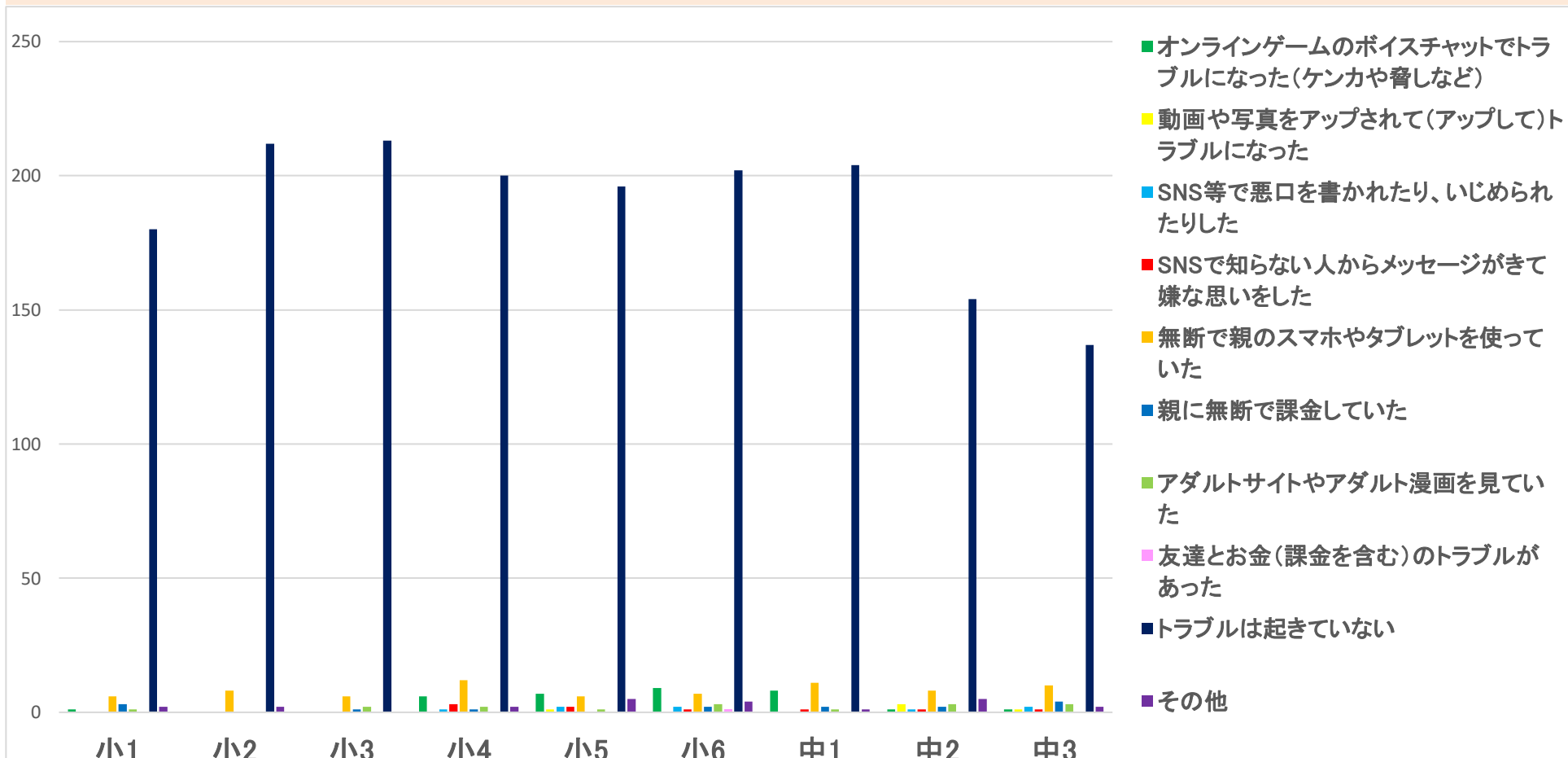
どの学年も「使用時間の増加」を心配する意見が一番多い。小学生では2番目に「約束やマナーを守っているので心配はない」が多い。中学生では「勉強時間や睡眠時間が削られている」ことを心配している保護者が多くなる。これは中学生本人のアンケート結果とも一致している。3～4番目に「家族と一緒に過ごす時間や会話が減っている」と心配する保護者が多い。保護者の工夫により親子で過ごす取り組みを心掛けてほしい。

問⑦お子様のインターネットやゲーム機等の利用について健康面などで心配なことはありますか？（複数回答可）



眼への影響を心配する保護者が1番多い。2番目は、小学校の保護者では脳や運動不足を心配していることから、心や体の成長を心配していることがわかる。中学生の保護者は学力低下をあげており、中学卒業後の進路選択への影響などを含め、学力への関心の高まりがあることがわかる。「約束やマナーを守っているので心配はない」家庭も一定数ある。

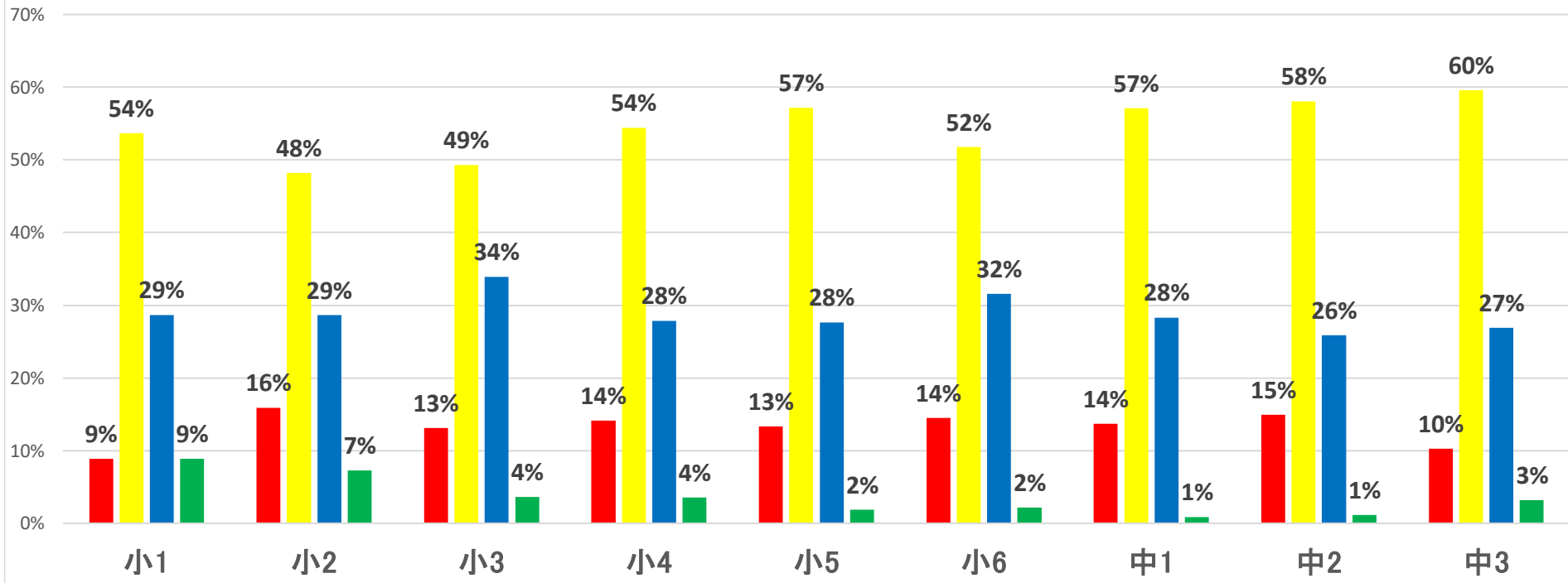
問⑧お子様に実際にトラブルが起きたことはありますか？（複数回答可）



「トラブルは起きていない」と思っている保護者が、小中学生ともに圧倒的に多い。事実がそうであれば心配ないが、子どもたちのアンケート結果にはたくさんのトラブルを経験していることが示されており（子ども問9）、保護者と子どもとの認識に大きなずれがある。

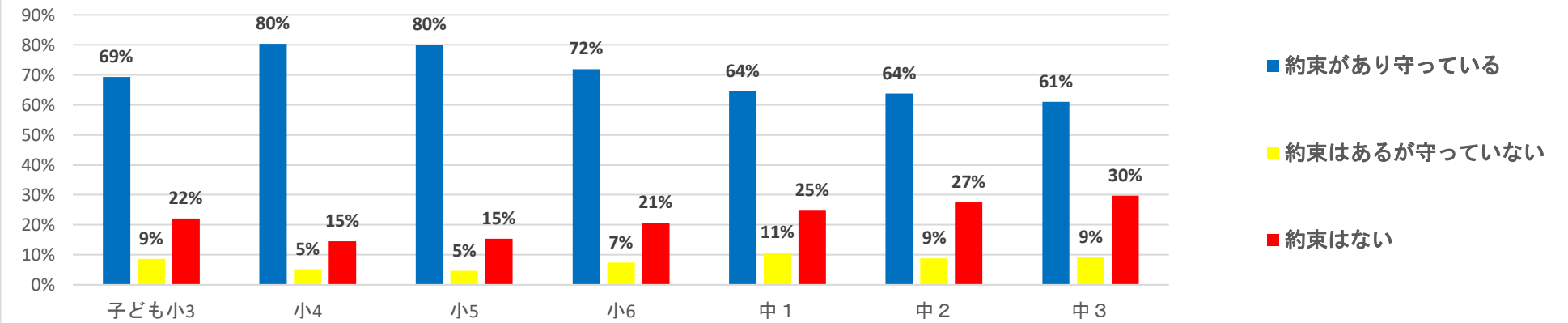
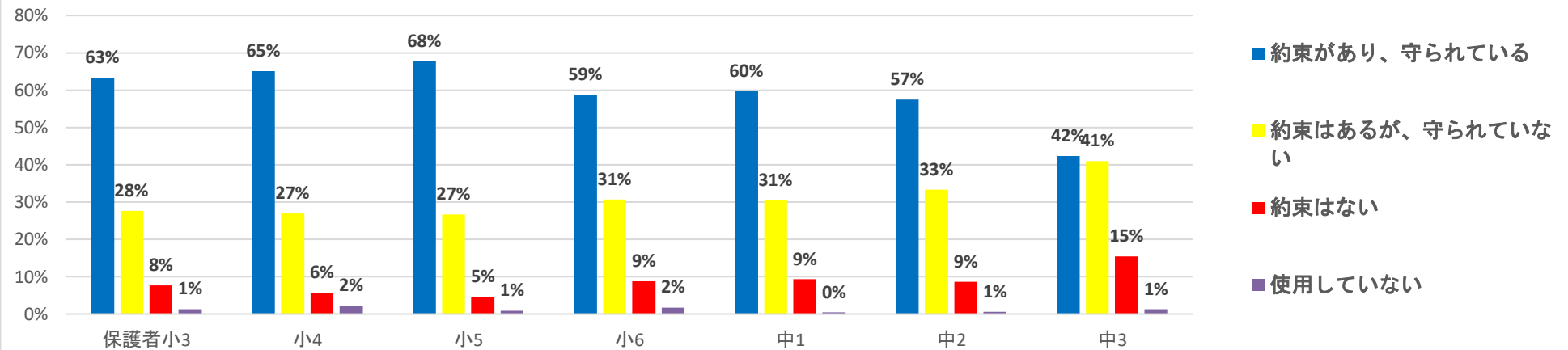
問⑨お子様はスマートフォンやゲーム、インターネット等にどのくらい夢中になっていますか？

- 夢中になりすぎており、やめられない。注意するとイライラする
- 夢中になりすぎてはいないが、やりはじめるとなかなかやめられない
- 使用するが、長時間はやらない。夢中にはなっていない。
- ほとんどやらない。興味がない。



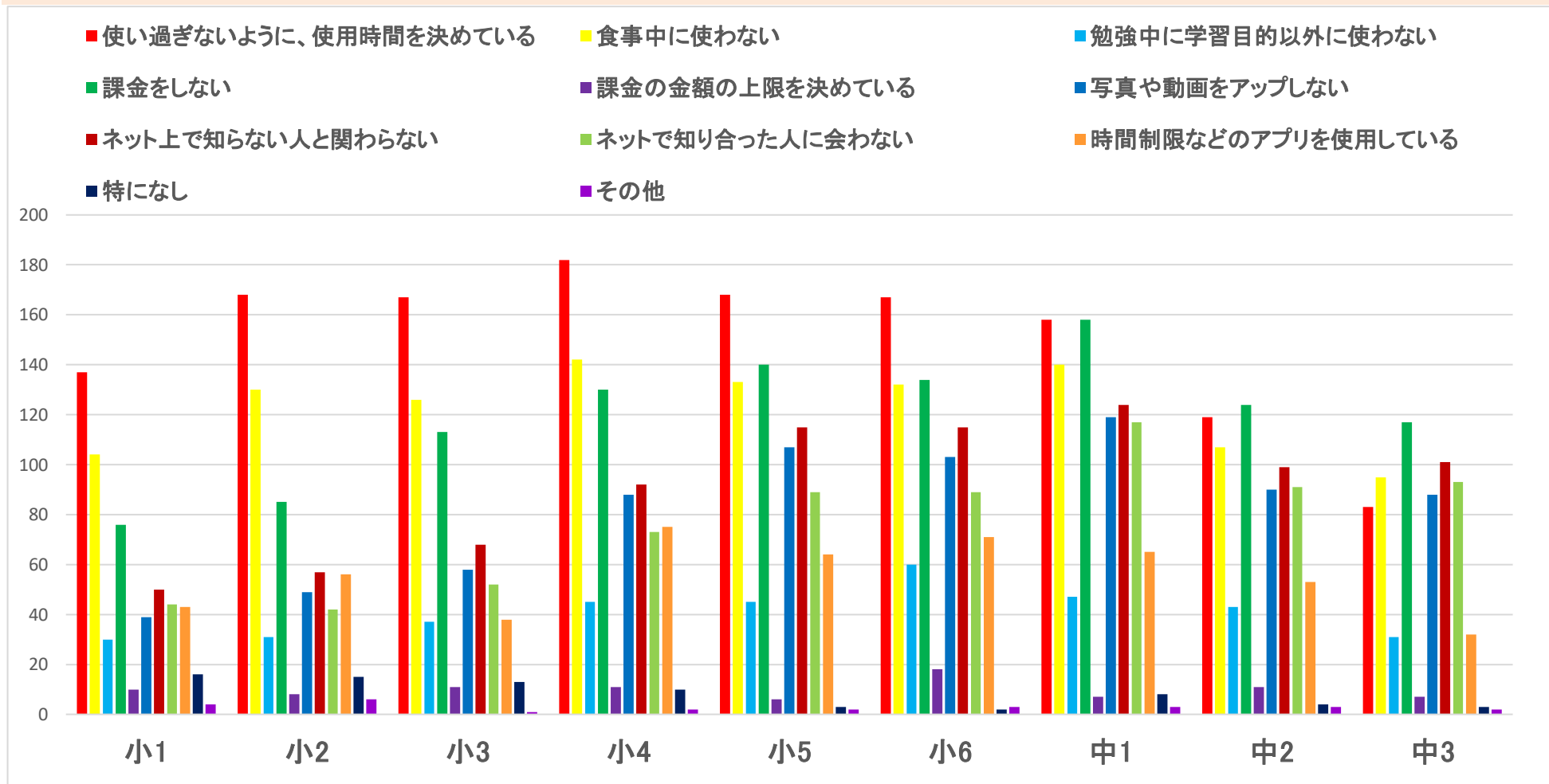
小中学生の保護者ともに1割以上が「夢中になりすぎており、やめられない」と回答しており、ネット依存になっている可能性が大きいと考えられる。「夢中になりすぎてはいないが、なかなかやめられない」も含めると6割以上（中学生は7割）がネット依存症予備軍と考えられる。子どもの回答（問11）との比較では、子どもは「やめられない」が学年とともに減少し、親から見た子どもの様子とにズレがある。親が心配するほどには、子ども自身に自覚がない。

問⑩お子様のインターネットやゲーム機等の使用について、家庭での約束があり、守られていますか？



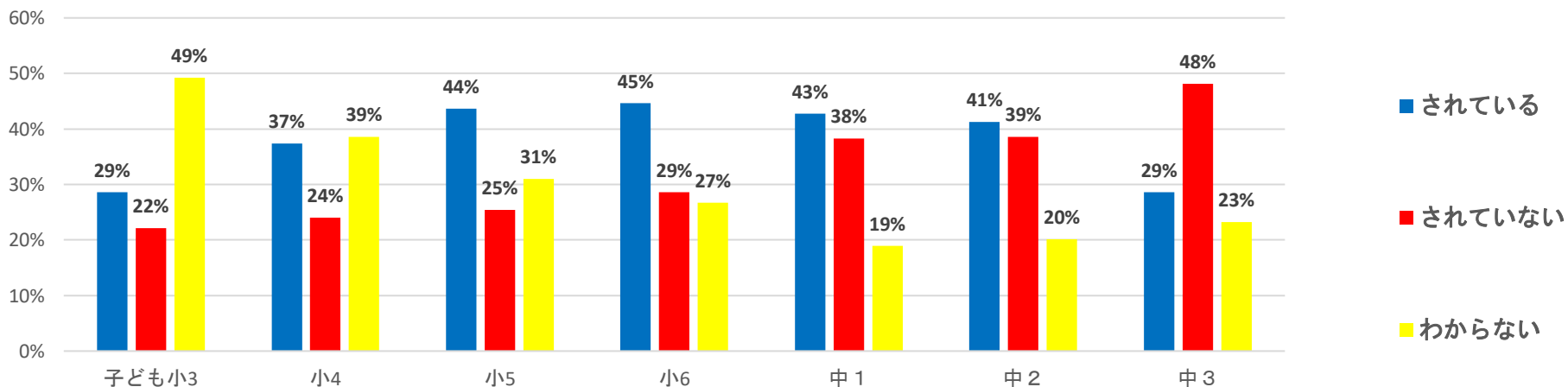
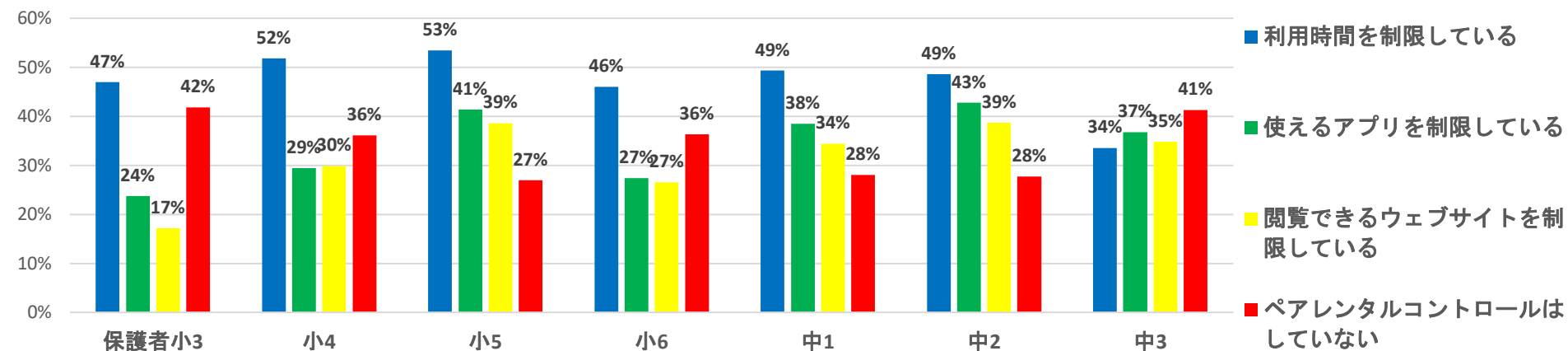
小学生保護者の5～9%、中学生保護者の9～15%が「約束はない」と回答しているが、子どもたちの回答では小学生の15～22%、中学生の25～30%が「約束はない」としており、2～3倍となっている。保護者は約束のもとに使用させているつもりでも、子どもたちは「約束がない」ものとしてとらえている。保護者の3～4割は「約束はあるが守っていない」と思っているが「約束がないがごときになっている」という可能性がある。

問⑪お子様のインターネットやゲーム機の使用において、心がけさせていることや決めていることはありますか？（複数回答可）



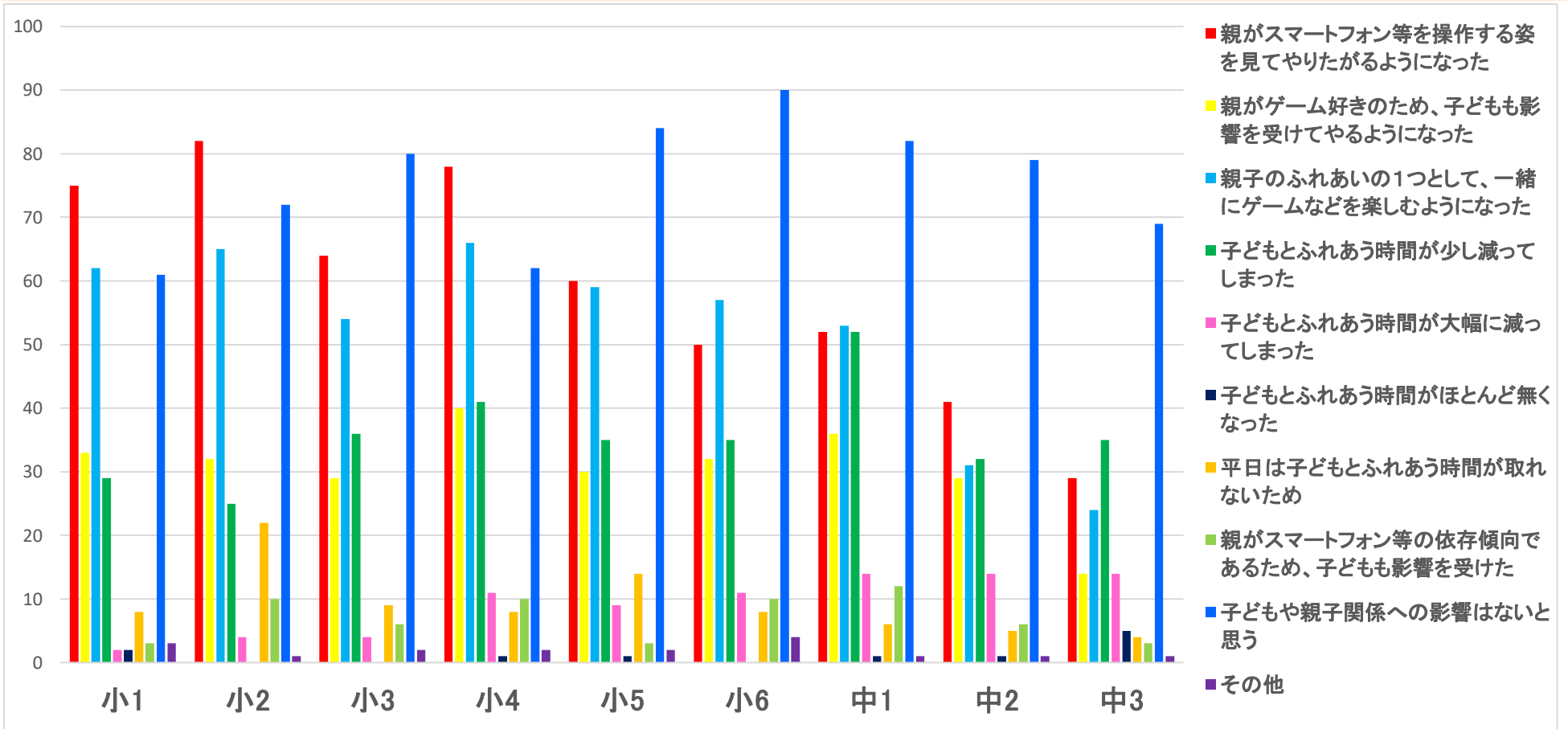
「使いすぎないように、使用時間を決めている」が多く、次に「食事中に使わない」「課金をしない」が続く。4番目には「ネット上で知らない人と関わらない」が多く、たくさんの危険性を想定して、保護者としてのコントロールを行おうとしている家庭が多いことがわかる。

問⑫時間制限やアプリの制限など、ペアレンタルコントロールをしていますか？（複数回答可）



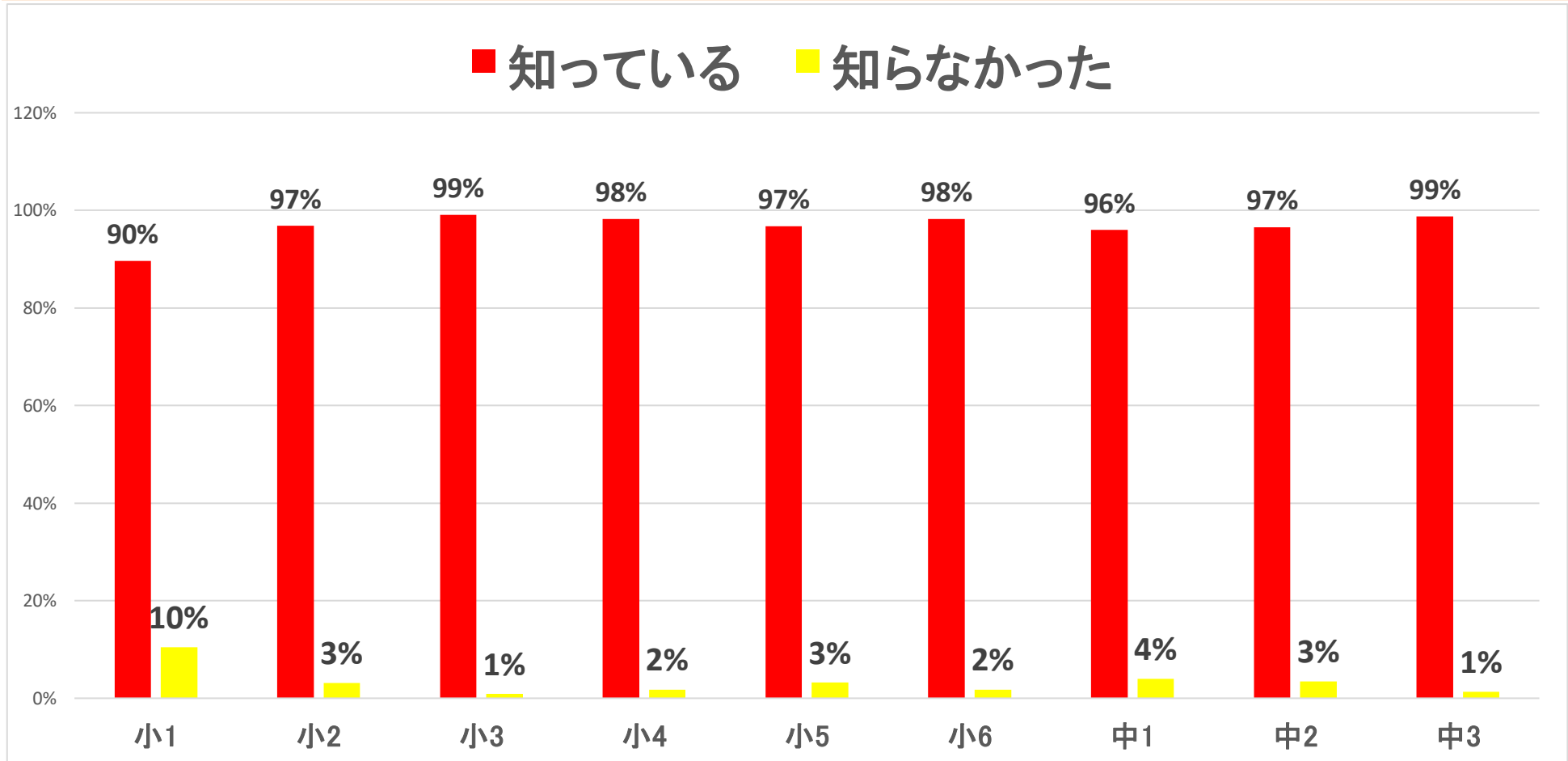
小中学生の保護者は、ともに全体の6～7割が何かしらのコントロールをし、「利用時間を制限している」が一番多い。「ペアレンタルコントロールはしていない」が回答数の3～4割であることから、必要最低限の危機管理は親として、行ってほしいところである。

問⑬親のスマホ、タブレット、ゲーム機等の使用によって、子どもや親子関係への影響が出ていると思うことはありますか？（複数回答可）



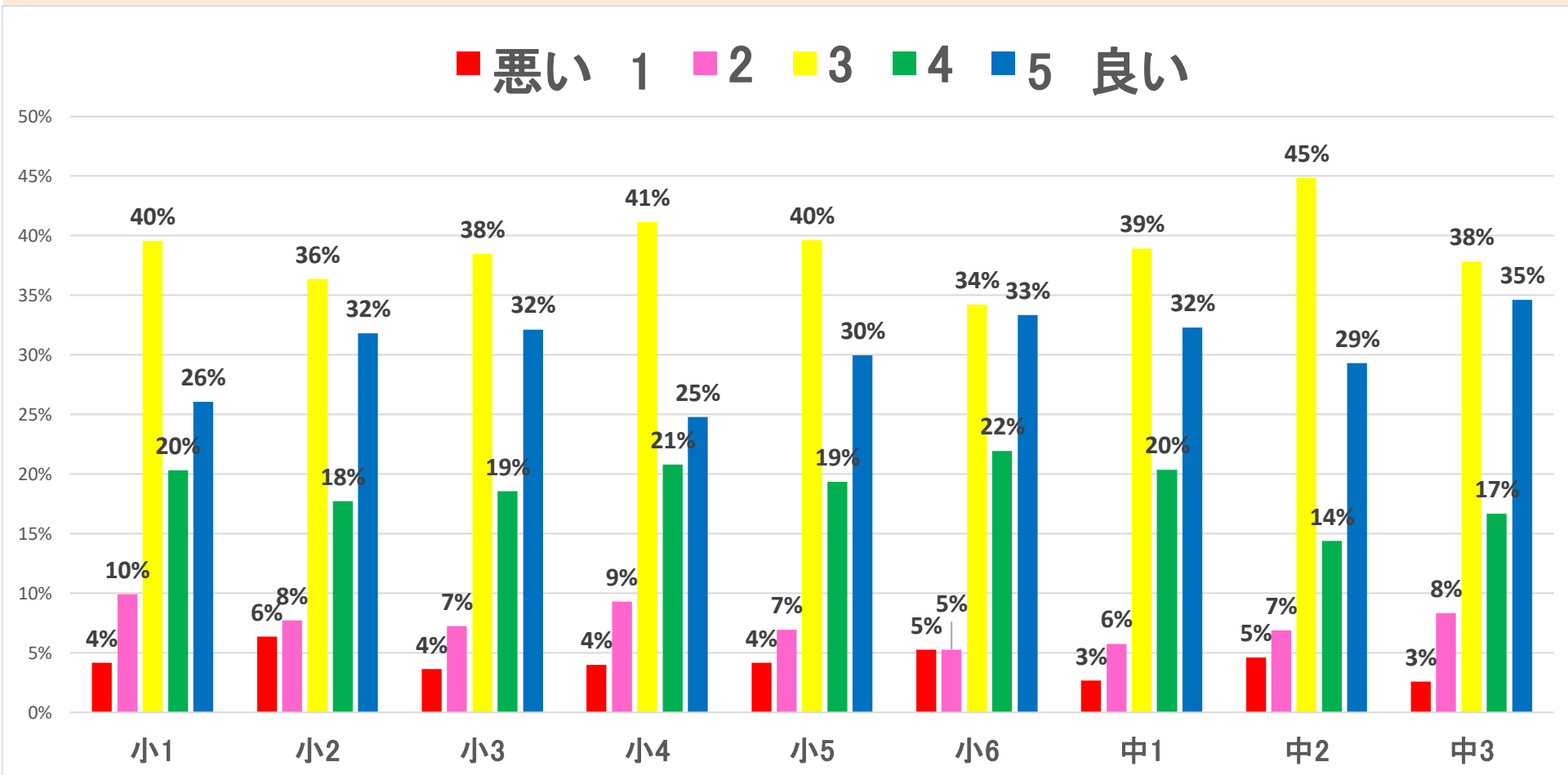
「子どもや親子関係への影響はないと思う」の回答が多い。影響があると感じている保護者は、小学生では「親がスマホ等を操作する姿をみてやりたがるようになった」が最も多く、次に「親子のふれあいのひとつとして、一緒にゲームを楽しむようになった」が多い。中学生では「子どもとふれあう時間が少し減ってしまった」が多い。影響を肯定的にとらえる面と否定的にとらえる面の両面があり、より良い親子関係づくりのために使い方を工夫していることがうかがえる。

問⑭野々市市では毎月第1水曜日を「NOネット、NOゲーム、NOテレビデー」として
います。この取り組みをご存知ですか？



月に一度、インターネットやゲーム、テレビをやめて家族でゆっくり会話や読書を楽しむ日ですが、全体の9割以上の保護者はこの取り組みを知っていると回答。小1では90%が知っているが、小2では97%とほとんどの保護者が周知している。今後も更に取り組んでもらえるよう啓発を続けていく必要がある。

問⑮市民会議では『子どもたち(小・中学生)に携帯電話を持たさない』運動を提唱してきましたが、この取り組みについてどのように思われますか？



この取り組みについて「良い」「やや良い」と回答した保護者は約50%とほぼ半数になる。反対に「悪い」「やや悪い」と回答した保護者は約10%である。中学生のスマホ所持率48%（問1）であることから、スマホを持たせた結果、持たせない方が良かったと思っている保護者がいると考えられる。